

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2020年9月30日発行 第89号

タイ便り

～ タイ在住の西川会長より ～

新型コロナウイルスが騒がれ始めて半年が過ぎました。まだまだ先の見えない状況が続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

9月現在、タイでは国内感染はほぼ抑えられており、どこへ行くにもマスク着用が必須で一部制限が残っているほかはほぼ元通りに生活できるようになりました。今回はコロナ禍のタイでの生活について振り返ってみたいと思います。

思い起こせば、新型コロナに対するタイにおける初動はかなり遅かったように思います。旧正月には大挙して中国人観光客が押し寄せていましたし、アジア諸国が次々に外国人の入国を制限しているなかタイにはどんどんと外国人が入国してくるような状況が続きました。日本でダイヤモンドプリンセス号が脚光を浴びているころ、タイでも徐々に感染者が出て、日本旅行からの帰国者に感染者が出て、家庭内感染したのち家族が出勤、登校したことが明るみになったことで、職場や学校が閉鎖され、そのころから一気に日本人の印象が悪くなったことを記憶しています。私の勤める日本語学校でも、国の方針を受け、日本をはじめ感染国から帰国したばかりの学生については出席停止を求めるなどの措置を取り始めたのですが、そんな中、3月17日に突然、国から商業施設等の営業停止、いわゆるロックダウンが始まりました。

その内容は：

- 学校機関やスーパー、薬局を除く商業施設の閉鎖
- 飲食店の店内飲食禁止（持ち帰り、宅配は営業可）
- 外国人の入国禁止
- 夜間外出禁止
- 在宅勤務の奨励

などでした。

ロックダウンと言っても、夜間以外は外出に制限はなかったので、出歩くことはできましたし、タイの屋台・レストランは、通常時から汁物であろうが何でも持ち帰りができますので、飲食に困ることもありませんでした。市民の協力姿勢も素晴らしいもので、すぐにフードコートからは机と椅子が撤去され、スーパーのレジにはビニールシートで衝立てが立てられ、電車の座席にも1席おきに×印が貼られ、エレベーターには立ち位置を示す印がつけられるなど、ソーシャルディスタンスを保つための動きが瞬く間に広がりました。日本と同じようにマスクの品薄状態、価格のつり上げはしばらく続きましたが、布製マスクの供給が始まったのは日本よりずっと早かったように思います。屋外の電光掲示板には、「みんなで協力してコロナを乗り越えよう！」などといった芸能人を起用した前向きなCMが流され、ほとんどの人が国が示した方針（命令？）に協力的で、国全体が一つの方向に向かっていくように感じられ、それは初動の遅れに感じた不安を完全に覆すものでした。日本人に対する冷たい目線も、その後ヨーロッパやアメリカで感染が爆発的に広がったことで徐々になくなっていきました。

徹底した感染予防対策が功を奏したのか、タイにおける感染者は徐々に減り続け、6月以降、段階的に様々な制限が解除されていきました。7月からは学校教育機関に対する閉鎖命令も条件付きではありましたが解除され、通常5月ごろから始まる小中高校も約2か月遅れてひとまずオンラインでスタートしました。

さらに、商業施設の営業が許可されたときには、ほぼすべての施設で非接触体温計、またはサーモグラフィによる検温が義務付けられ、入場前にケータイでQRコードをスキャンすることによって出入りの情報を登録するシステムも国主導で導入されるなど、コロナ対策へのIT技術の活用についても日本よりずっと先進的でした。

9月現在、マスク着用率がほぼ100%、夜の街関連の店がいまだに営業を禁止されていること以外は、生活はほぼ元通りに戻りました。もちろんコロナ禍によって廃業を余儀なくされた店舗、閉鎖されたままのホテル、観光客がいなくなった観光地、職を失った人などその影響は甚大です、しかし、少なくとも日常生活に不安を感じる事がなくなったことでほっとしている人は多いのではないかと思います。

国主導のかなり強引な対応ではありましたが、日本の報道を見ていて、私がタイにいて良かったと思ったことの一つに、国からの指示が「自粛」ではなく罰則付きの「命令」だったことが挙げられると思います。何が正解なのか行動に迷うことがありませんでした。私の職場でも、感染が広がった時期がちょうど学期末に重なったためどう対応すべきかずいぶん頭を悩ませました。しかし、最終的には国が閉鎖の「命令」を出してくれたおかげで迷うこともありませんでしたし、その対応で、学生や保護者から批難をうけることはありませんでした。

また、最初に国からの情報提供を一元化するという発表があったおかげで、テレビ番組などでいろいろな専門家がそれぞれいろいろな立場から発言して情報が錯そうすることはありませんでした。

さらに前述のように、こうした事態に直面した時のタイ人の協力姿勢が素晴らしく、町を歩いていてもいっしょに困難を乗り越えようという機運が感じられ、私たちも辛抱しなければという気持ちにさせられました。法律の違いもあるかと思いますが単純に比較することはできないかもしれませんが、いろいろな面でタイ・タイ人に見習うべきことが多かったように感じます。

もちろん問題がなかったわけではありません。学校現場では国がオンライン授業への移行を決めたものの、テスト運用で大混乱し、特に地方の学校では運用がうまくいかなかったり、オンライン授業に必要なパソコンやインターネット回線が準備できない家庭があったりと、様々な問題が浮き彫りになったそうです。

また、3月末には日本が外国人の入国禁止を決めたために、4月から日本留学に旅立つ予定だった学生たちは軒並み留学延期に追い込まれ、春休みを利用してタイに一時帰国していた学生たちは日本に戻ることができず、授業も受けられずそれでもアパート代を払い続けなければならないなど、留学生たちもコロナに翻弄されています。

一日も早い収束を願いたいものです。

※ ワークキャンプで何度も利用したスクンビット5の「ロイヤル・ベンジャ・ホテル」は現在帰国者のための隔離施設となっています。

※ ワークキャンプ帰りにお土産を買いに行った人も多いと思いますが、伊勢丹バンコク店が8月末日をもって閉店しました。

2020年9月8日

西川 弘達


 カレンダー

～ 2019年12月—2020年8月 ～

日 付	内 容	プログラム
12月初旬	NT 通信第 87 号発送	事務局
12月6日(金)	名古屋 NGO センター忘年会	事務局
12月14日(土)	運営委員会 奨学金プログラムアサイン作業	事務局
12月21日(土)	国際協力カレッジ出展 JICA 中部	山 岳
1月25日(土)	運営委員会	事務局
2月1日(土)	ボランティア入門講座	事務局
2月17日～	カンボジア、タイ視察	奨学金
3月8日(日)	運営委員会	事務局
3月	JICA NGO オンリーワン戦略講座 (ZOOM)	事務局
4月12日(日)	総会	事務局
4月	カンボジア緊急支援 (1 回目) 2 万円送金	カンボジア
5月	カンボジア緊急支援 (2 回目) 2 万円送金	カンボジア
6月	カンボジア緊急支援 (3 回目) 3 万円送金	カンボジア
6月27日(日)	臨時総会 (定款住所変更) 事務所引っ越し	事務局
7月	タイ奨学金 (送金対応)	奨学金
7月18日(土)	運営委員会	事務局
8月	カンボジア緊急支援 (4 回目) 2 万円送金 カンボジア奨学金送金	カンボジア
8月下旬	カンボジア緊急支援クラウドファンディング開始	カンボジア
8月29日(土)	運営委員会	事務局

●今後の予定

日 付	内 容	プログラム
9月12日(日)	伝わるチラシコンテスト オンライン	事務局
9月16日(水)	JICA NGO オンリーワン戦略講座 (ZOOM)	事務局
9月27日(土)	運営委員会 翻訳会	事務局
10月上旬	名古屋 NGO センター ステファニ・レナト賞 2 次審査	事務局
10月下旬	運営委員会 翻訳会	事務局
2021 年		
5月18日(火)	名古屋千種ロータリークラブ例会 活動報告	事務局

新型コロナウイルスの影響により国内外での活動が大幅に制限されることになりましたが、事務局ではオンライン会議を導入するなどして、国内活動は継続しています。タイやカンボジアでの奨学金授与式などはすべて中止しましたが、奨学金支援については、奨学生への銀行送金などで対応しました。

事務所の引越し等で、とても慌ただしい夏となりました。

報告 1

～事務所の移転～

2020年8月に事務所を移転しました。

旧事務所ビルの取り壊しが決定し、2021年2月までに退去しないといけなくなりましたので、急遽、シェアオフィスを探しました。

名古屋国際センター裏の雑居ビルで、地下鉄桜通線「国際センター駅」から徒歩200メートルです。ご迷惑をお掛けしますが、ご理解の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、電話番号や郵便振替口座番号などは変更ありません。

旧住所

〒450-0003

名古屋市中村区名駅南二丁目11番43号 日商ビル2階 NPOステーション内

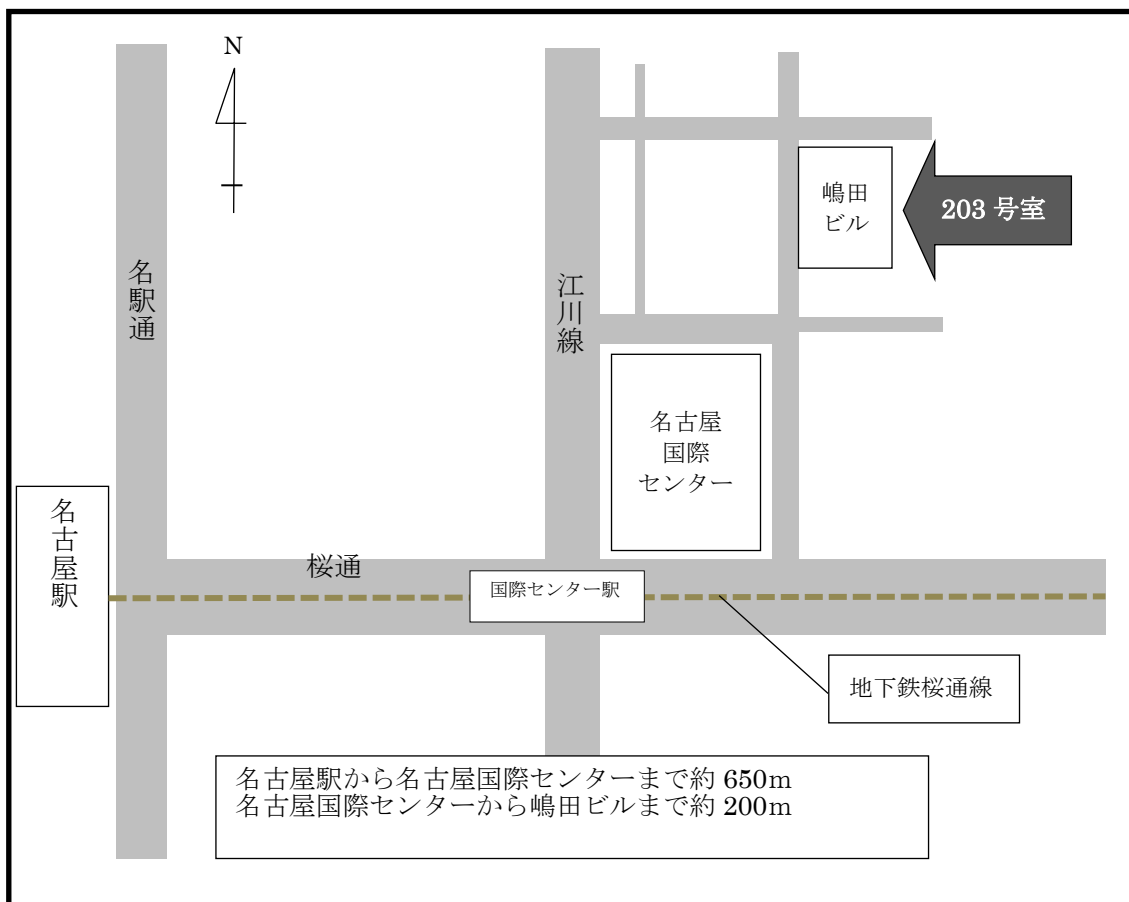
新住所

〒450-0001

名古屋市中村区那古野一丁目44番17号 嶋田ビル203号室

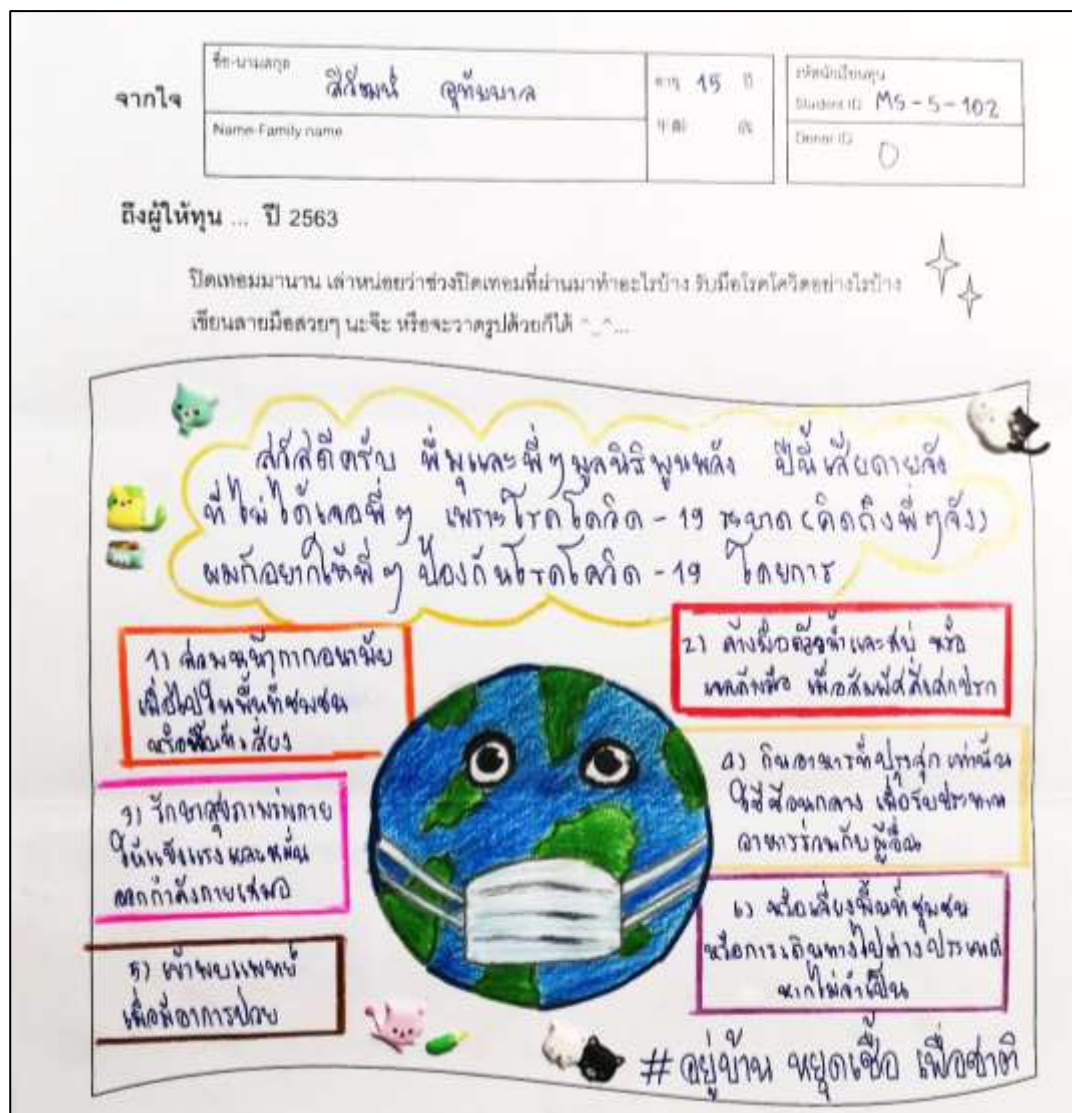
- ・新事務所もシェアオフィスとなります。来所の際は事前予約をお願いします。

地図



報告2

～タイ奨学生からの手紙～



MS-S-102 Siwat Uthaiban 中学3年生

みなさん、こんにちは。今年新型コロナウィルスでみなさんにお会いできなくて残念でした。(会いたいです) 新型コロナウィルスから身を守るためには：

1. 人混みやリスクのあるところに行くときはマスクを着用すること。
2. 汚いものを触った後に石鹸またはハンドジェルで手を洗うこと。
3. いつも運動して、元気な体を保つこと。
4. 火が通った料理しか食べない、人と一緒に食事するときは取り分け用のスプーンやフォークを使うこと。
5. 具合悪くなる時は医師に相談すること。
6. 必要がなければ人が集まる場所や外国に行かないこと。

家に居て出かけない 感染拡大防止 国のため。

報告3

～カンボジア緊急支援～

新型コロナウイルス感染症は、カンヘルプタイランドが支援しているカンボジア王国バタンバン州のサンパオルン地区に暮らす貧困層にも大きな打撃を与えました。タイとカンボジアの国境が封鎖され、両親がタイへ出稼ぎに行っていた家族や国境市場で日雇いの仕事をして暮らしていた貧困家庭は、収入源を絶たれ、その日の食糧確保にも苦勞する窮地に追い込まれました。

そのようなカンボジアの悲惨な状況を、現地の友人が SNS を通じて報告してくれたので、日本の事務局の運営スタッフで話し合い、4月から「カンボジア緊急支援」を期間限定で実施することにしました。まずは運営委員の有志から募金を集め、4月分として2万円を現地協力者のマーク君へ送金し、そのお金で米や調味料など必要最低限の食料品をまとめて購入してもらい、サンパオルン郡の貧困家庭10軒へ配布してもらいました。1軒当たり3週間分くらいの食糧支援になりましたが、この支援を5月、6月と続けました。

その後、ドナー様からも寄付金をいただきましたので、7月、8月、9月の3カ月は、支援を続けます。10月以降の「カンボジア緊急支援」の支援金が不足しておりますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。(寄付金振込時に「カンボジア緊急支援」とご指定下さい)



CAMBODIA カンボジア COVID19 緊急支援募金

コロナ禍を共に生き抜くために…



カンボジア王国バットアンバン州サンバオルン郡ブノムデイ地区
タイと国境を接するこの地域には、国境市場で日雇いの荷役に従事し
その日暮らしをしている貧困家庭が多くあります
COVID19の影響で国境市場が封鎖され、収入のなくなった家族は…



支援の流れ

- 皆様からのご寄付を、NPO キャンヘルプタイランドがカンボジアの協力者へ送金。
- 現地協力者のマーク君が、寄付金で食料品(米・調味料など)を一括購入。
- マーク君が、直接貧困家庭へ食料品を配布。(1軒あたり約15ドル分/同等量の食品を配布)

クラウドファンディング挑戦中！

<https://readyfor.jp/projects/cambodia2020>



READYFOR

2020年9月30日 締切



お問い合わせ先

特定非営利活動法人
キャンヘルプタイランド

〒450-0201 名古屋市中村区郡古野1-44-17 高田ビル 203

TEL:052-566-5131

Mail: office@canhelp.jp

お知らせ

～ご寄付のお願い～

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム(タイ・カンボジア)	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
カンボジア支援プログラム	1 □	5,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 *	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…

会員になっていただいた方には、年2回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年1回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド
番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2020年7月～8月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	6月	事務局	臨時総会（定款の住所変更）
運営委員会	7月	事務所	カンボジア緊急支援について
運営委員会	8月	事務所	タイ奨学金送金について

運営委員募集中！

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響により、活動規模の縮小を余儀なくされている NGO が多く出る中、キャンヘルプタイランドも、タイやカンボジアでの活動を中止せざるを得ませんでした。

2018 年から始まった愛知大学タイボランティアツアーも本年度は中止され、タイ・カンボジアで行う予定だった奨学金授与式も開催できませんでした。

昨年は、3 か月おきにタイやカンボジアへ渡航しましたが、今年は、3 月 8 日にカンボジアから帰国して以来、半年以上飛行機に乗っていません。そろそろ禁断症状が出てきました。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.89>

発行 NPO キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2020年9月30日
 住 所 〒450-0001
 名古屋市中村区那古野1-44-17 203
 Tel & fax 052-566-5131
 (来所の際は予約下さい)

E-mail : office@canhelp.jp
 ホームページ : http://canhelp.jp